



Title	大阪大学人間科学部紀要 第22巻 表紙
Author(s)	
Citation	大阪大学人間科学部紀要. 1996, 22
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/21082
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

大 阪 大 学

人 間 科 学 部 紀 要

第 22 卷

大阪大学人間科学部 1996

大 阪 大 学

人 間 科 学 部 紀 要

第 22 卷

大阪大学人間科学部 1996

目 次

主観色の発生機構に関する実験心理学的諸研究の検討	中島義明・川村 智	P. 1
認知的動機づけ諸理論に関する一考察	赤井 誠生	P. 21
交通事故による入院患者に対しての面接調査	小川 和久	P. 35
時間評価の認知過程 —— 作業記憶の役割 ——	篠原 一光	P. 71
因果関係モデルによる若年従業員の「仕事の楽しさ」の分析	山下 京	P. 95
課題遂行におよぼす目標設定と自律性の効果	三浦 麻子	P. 111
Lispによる統計学	吉田 光雄	P. 133
A Review on Experimental Studies of Second Language Speech Perception Training :Necessity of the Learning Paradigm in Speech Perception Studies Tsunao YAMADA & Reiko A. YAMADA		P. 157
味覚の行動科学的・認知神経科学的実験法について 山本 隆・志村 剛・碓 哲崇・八十島 安伸・坂井信之		P. 177
投影の働きと病名告知	柏木 哲夫・平井 啓	P. 205
臨床老年行動学に向けて —— 教育心理学からのアプローチ ——	山本 恵子	P. 231
和辻哲郎著『風土』の日本的オリエンタリズム —— 二項対立の視点から —— 竹中 均		P. 247
語 り と 沈 黙 —— 表現を理解するとはどういうことか ——	菅野 盾樹	P. 267
時 間 の 本 性 —— 体験される時間からの出発 ——	中山 康雄	P. 297
現代マヤの衣装と政治 —— グアテマラの場合 ——	小泉 潤二	P. 319
生命科学の発展と「発達教育学」の課題 —— 中村桂子の「生命誌」概念の検討を中心に ——	平野 正久	P. 341
武田常夫の「文学の授業」の分析	井上 光洋	P. 367
Self-Focusと「他者」 —— 日本人の自他関係の枠組みから ——	上田恵津子	P. 385
自己評価についての一考察（2） —— 幼児期の自己認識の発達について —— 梶原 佳子		P. 399
学習環境学研究序説 —— 学習条件整備の方向性 ——	阿部 彰	P. 411
自己概念と学力に関する理論的考察 —— 部落の学力・生活実態調査の結果から —— 池田 寛		P. 433
同和地区における保護者の教育意識と学力形成 —— 大阪府A市での聞き取り調査から —— 高田 一宏		P. 457

【定年退官教授の履歴および主要業績】

難 波 清一郎 教授 P.477

人間科学部紀要 執筆者及び題名一覧 P.481